



映画雑感 13

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼緊急事態宣言明けの5月末、厳戒下の映画館は新作の公開が少なく、どこも閑散としていました。そんな中で出会ったのがドキュメンタリー映画「なぜ君は総理大臣になれないのか」です。映画「シアトリカル 唐十郎と劇団唐組の記録」やテレビ「情熱大陸」などで知られる大島新監督が、32歳で総務省を辞めて衆議院選に初挑戦した小川淳也氏の17年間の苦闘を追い続けた記録です。真摯に政治の

理想を語り続ける姿はしわが深く刻まれた17年後も全く変わりませんが、それゆえに党内の出世もままなりません。そんな彼が統計不正問題を質した国会質問場面はまさにこんな人が総理になってほしいと思わせました。

▼「ステップ」は妻に先立たれた主人公が男手一つで娘を育てた10年間を描いています。不器用だが一生懸命な主人公を演じた山田孝之がこれまでにない新境地を見せてくれました。▼「アルプススタンドのはしのほう」は、高校野球の応援に強制的にかりだされたやる気のない生徒たちのおしゃべりが展開されます。次第に彼らのここに至る事情が明らかになっていきます。いったい何が起きているのかわからないまま高校生たちのリアルな現実に関

き込まれていきました。これは高校演劇の全国大会で最優秀に輝いた舞台劇の映画化作品。

▼「宇宙で一番明るい屋根」は、父親と血のつながらない母との間に子供が生まれることになり、疎外感に捉われた14歳の少女が主人公。憩いの場である書道教室の屋上に突然派手な衣装の老婆が現れ、彼女の悩みを不思議な洞察力で解決に導いていきます。清原果耶の初々しい演技と老婆を演じた桃井かおりの自在な怪演が見事なハーモニーを生み出しています。

▼「窮鼠はチーズの夢を見る」では、以前から秘かに恋していた先輩男性の不倫調査を担当することになり、調査結果をもとに強引に関係を迫ります。男にも女にも受け身で流さ

れていく男を一途に追い求める若者を描いた見事な(?)恋愛映画でした。

▼「ミッドナイトスワン」では母親の育児放棄で行き場のない少女を嫌々引き取ったトランスジェンダーの主人公が、やがてバレリーナを目指す少女を本気で応援するようになり、底辺で生きる主人公の切羽詰まった愛情をリアルに演じ切った草薙剛の演技に脱帽です。

▼「星の子」では両親が新興宗教にのめり込んだことで次第に困窮し、学校でも好奇の目にさらされる少女が、新任教師に恋心を抱くのですが、それも無残に打ち砕かれます。中学生に成長した芦田愛菜の久々の主演映画。やはり抜群の存在感でした。